

農地利用最適化の最前線

頑張る農業委員・農地利用最適化推進委員

稲美町農業委員会 会長

高橋 秀一さん(69)

「わが町でも農家の高齢化が深刻になっていきます。農地を守るためにも、若い担い手の確保が必要です」と話すのは、稲美町農業委員会の高橋秀一会長(69)。

向山営農組合の組合長でもある高橋さんは2013年頃から、町内で軟弱野菜やキャベツなどを生産していた新規就農者4人をサポートしてきた。4人それぞれとじっくり話し合い、信頼関係を築いてから営農組合の構成員になってもらうことで、農地の幹旋

(あっせん)や圃場管理などの支援をしてきた。新規就農者らは、加古川市から通っている人や非農家出身の人などで、経営規模を拡大したいが農地を借りることに苦労していたという。

4人の現在の耕作面積は、営農組合が預かる農地を合わせて約5畝になり、「彼らがいないと、この広大な農地を

誰かが管理しなければならなかった。とても助かっていま

「これが管理しなければならなかった。とても助かっていま顔を見せた。」と笑



「これからも新規就農で農地に困っている人がいたらサポートしていきたいです」と話す高橋さん

「と高橋さんは話す。

今も農作業中の4人の様子を見に行き、きちんと休憩を取っているか、家族との時間を作っているかなども気に掛けているという高橋さん。

「若い担い手が今後も営農組合とともに、地域の農地を守り続けてほしいですね」と笑顔を見せた。

営農組合と連携し新規就農者サポート